



お待たせしました。コミュニティバス通信が見やすくなって再開です。

みなさんこんにちは。前回からしばらく期間が空いてしまいましたが、コミュニティバス通信をお届けいたします。今回からは、りゅうほうの紙面に掲載することになりました。以前よりもずっと見やすくなりましたので、ぜひご覧ください。

さて、今回のコミュニティバス通信では、「運転手さんのひみつ」をテーマとして、バスの運転手さんについてお伝えいたします。そして、交通政策で著名な、横浜国立大学の中村先生、東京工業大学の藤井先生のご協力をいただき、お二人の貴重なコラムも前回から引き続き掲載しております。

それでは、コミュニティバス通信第7号をお楽しみください。

【編集】
 龍ヶ崎市総務部交通防災課
 交通政策グループ
 〒301-8611 龍ヶ崎市3710番地
 TEL 0297-64-1111(内線 352)
 FAX 0297-60-1583
 【協力】
 東京工業大学土木工学科 藤井研究室
 筑波大学システム情報工学研究科 谷口研究室

コミュニティバス情報

運転手の豊島さんに聞きました

—豊島さんは、バス運転歴35年のベテラン運転手さんで、龍ヶ崎市のコミュニティバスは約2年前から運転されています。龍ヶ崎市コミュニティバスを運転していて特に感じることは？

豊島：一番は、お客さんと顔なじみになることが多いということです。一般的にバスの運行中は、運行に関係のない会話をしてはいけないことになっているのですが、コミュニティバスでは降りるのときにちょっと話をするのも多いんです。親しみやすく話しかけやすい雰囲気になっていると思います。

—バスを運転していて困ったことはありますか？

豊島：そうですね…。以前はバスに行き先表示がなかったので、ルートを間違えて乗るお客さんがいたことでしょうか。最終便で終点まで行って「ここで終わり?!」と路線をまちがえたお客さんに言われ、お客さんの家の近くまで送ったこともありました(笑)。最近はありません。

—うれしかったことはありますか？

豊島：お客さんに喜んでもらえることがうれしい。「このバスが走っているから買い物に行ける」と言われると、バス運転手でよかったなと思います。降りるときに「ありがとう、終わってからどうぞ」とお茶をもらったこともあります。

—運転手さんから市民の方々へお願いしたいことはありますか？

豊島：関東鉄道の路線バスと同じ停留所では、こちらのバスに乗るのか乗らないのかわからないときがあります。できれば、乗るときには手をあげてもらえると助かります。もちろん、手を挙げなければ停まらないということはなく、人が待っている停留所には停まるようにしていますのでご心配なく。

—ありがとうございました



龍ヶ崎市の公式ホームページでも過去のコミュニティバス通信をご覧ください。http://www.city.ryugasaki.ibaraki.jp/

CONTENTS

- 運転手の豊島さんに聞きました
- 徹底解剖 バスの運転席
- 『かしこいクルマの使い方』VOL.7
- 世界バス紀行

運転手さんの一日を大公開



- 6:30 家を出発
- 7:00 事務所に到着
料金箱準備・日報に記入・バスの点検
- 7:25 事務所出発
運行開始地点に、始発の10分前までに待機
- 7:40 始発場所到着
- 7:50 バス運行開始
1日6便(計8時間)運転
お昼はバス車内でお弁当。外食する余裕はありません。
- 18:35 運行を終え帰社
バスの外側・内側の掃除
- 19:20 退社
- 19:40 帰宅
お風呂に入って晩酌。
これが一番の楽しみ!

運転手さんは4日勤務、2日お休みというローテーションで働いているそうです。毎日バスの洗車までしているとはびっくりしました。

私たちの移動を支えてくれている運転手さん、いつもほんとにありがとうございます!